



2016年3月から2016年12月までの約10ヶ月間、交換留学生として韓国祥明大校へ在籍している総合管理学部4年の端山さつきです。私は中学生の頃に韓国ドラマやK-POPをきっかけとして韓国に興味を持ち始め、旅行で何度も韓国を訪れていました。大学2年生の夏に参加した短期探訪団やその後のホームステイ受け入れなど祥明大学の学生の方との交流を通して、韓国で学生生活を過ごしてみたい！という気持ちが強くなり、1年間の交換留学を決意しました。

天安

天安は京畿道、忠清南道にあり、ソウルからは高速バスで1時間20分ほどの距離にあります。地下鉄1号線でも乗り換えなしに1本で行くことができます。(2時間弱)面積は636.29km²で、人口は604,833人(2015年11月)、韓国の中でも大学が多く学生の都市ともいわれています。独立烈士柳寛順の故郷で、郊外には日本の植民地支配を受けた韓国が、自由と独立に向け闘争の歴史を記録した「独立記念館」があることで有名です。名物はホドカジャ(くるみ饅頭)と笠場巨鳳(巨峰)で、巨峰の生産量は、全国の総生産量の50%弱を占めており韓国一の巨峰ぶどうの生産地として知られています。



祥明大学からバスで10分ほどのところにある『ヤウリ』と呼ばれる市内には映画館や新世界百貨店などがあり、多くの人で栄えています。コスメショップや衣料品店などがあり、ヤウリに行けばなんでも揃えることができます。



飲食店や居酒屋も多く、熊本でいう下通りのような街です。高速バスターミナルもこのヤウリにあるため、ソウルに遊びに行く際にはよく利用していました。

大学紹介

祥明大学は1937年に祥明高等技芸学園として始められ、1986年に総合大学に昇格し、祥明女子大学校となりました。元は女子大学だったのですが、1996年に男女共学となり、名称も祥明大学に変更されました。ソウルキャンパスと天安キャンパスがあり、私が交換留学として行った天安キャンパスは1985年に開設されました。天安キャンパスは6つの学部から構成されており、私が在籍したのは語学文学大学の日本語文学科です。

自由専攻学部

自由専攻学部

語学文学大学

朝鮮語文学科 **日本語文学科** 中国語文学科 英語英文学科 フランス語文学科 ドイツ語文学科 ロシア語文学科

デザイン大学

視覚デザイン専攻 ファッションデザイン専攻 織物デザイン専攻
室内デザイン専攻 セラミックデザイン専攻 産業デザイン専攻

芸術大学

写真映像メディア専攻 映画映像専攻 演劇学科
公演映像舞台デザイン専攻 舞台衣装専攻 舞台照明音響専攻
マンガ専攻 アニメーション専攻 デジタルコンテンツ専攻
文化芸術経営学科

産業大学

植物産業工学科 環境造景工学科 リスク管理保健専攻 金融経営専攻
スポーツ産業専攻 社会体育専攻

工科大学

コンピュータシステム工学科 コンピュータソフトウェア工学科 経営工学科
医生命工学科 建設システム工学科 環境工学科

学校内施設

• 송백관 (ソンベッカ)

主に語学大学の授業が行われます。エレベーターがないので学生たちは毎日息を切らしながら講義室に入ってきます。1階にはラウンジという談話室があり、私は授業の空き時間や友人との待ち合わせによく使っていました。



• 한누리관 (ハンヌリグァン)

9階建ての建物で全学部共通の教養の授業などが行われます。私は留学生向けの授業で利用しました。ハンヌリグァンにはエレベーターが4台あります。1階にはカフェがあり、9階には5000ウォン（500円ほど）で食べられる食堂があります。



•コンビニ

校内に3つあります。授業がある平日の朝から20時ほどまで空いています。昼食時にはたくさんの学生であふれかえり、お昼を過ぎた頃に行くと商品のほとんどが売り切れていることもあります。新館の寮の中にもコンビニがあったのですが（2016年前期）後期からなくなってしまうようです。

授業

前期は主に**留学生向けの韓国語の授業**と**日文科の授業**を合わせて5つ受講しました。留学生向けの授業はすべて韓国語で行われますが、先生が聞き取りやすい韓国語で授業をしてくださるのですぐに慣れることができました。クラスは全員外国人留学生で、中国とウズベキスタンの学生が多く、台湾、ロシア、ネパールなどの学生もいます。日本語文学科の授業は日本語と韓国語を混ぜて授業が行われ、私が受講した「日本語作文」の授業では、先生

が日本人のために特別に日本語を韓国語に訳して文章を作る問題用紙を作ってくださいました。また韓国語の論文を教材として使う授業もあったので、毎週予習・復習に追われていました。

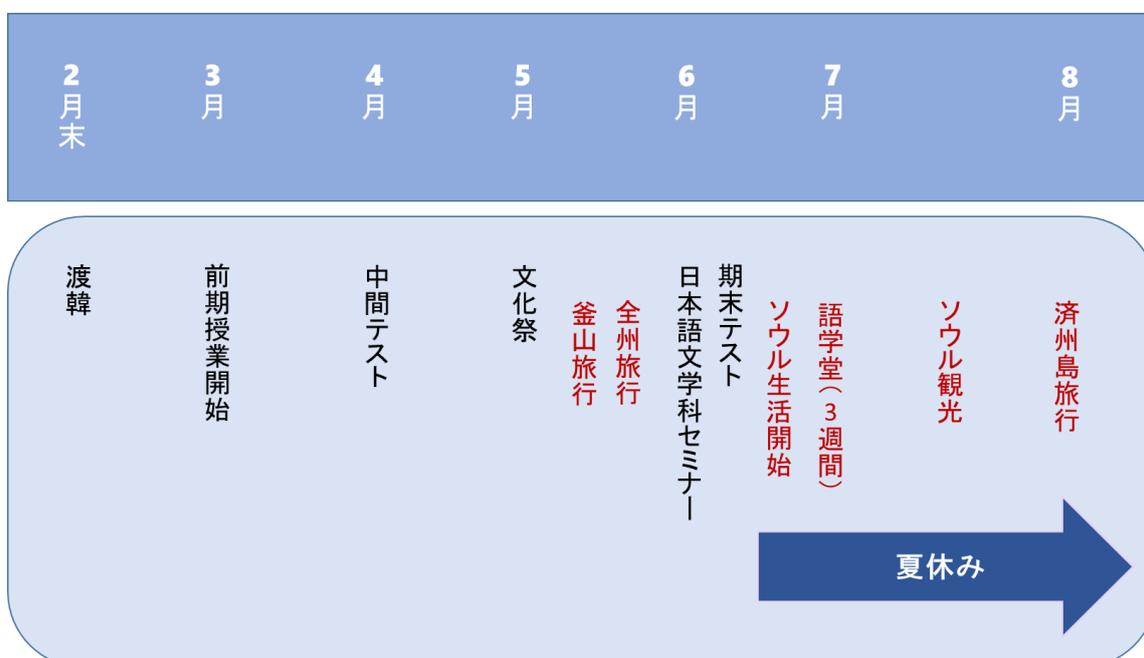
寮

坂を上った一番上に寮があります。女子寮である旧館と男女共同である新館があり、外国人留学生は旧館に住むことが多いようです。2人1部屋で外国人は一角にまとめられています。私が住んでいた頃は中国人留学生がほとんどでした。トイレ・シャワーは共同で、平日は掃除のおばさんが掃除をしてくれます。自炊はできませんが共同スペースに電子レンジ、浄水器が設置されているので、コーンスープやカップラーメンなど簡単なものは作ることができます。部屋にテレビがないので、見たい時は共同スペースで見ることになります。月～木は毎日11時に点呼が行われ、点呼時に不在だと減点されてしまいます。外泊申請や夜間延長申請（深夜1時まで）も可能です。



学校生活

前期までの全体のスケジュールはこちらです。（黒文字は学校行事、赤文字は私個人の予定です。）



桜祭り & 中間テスト

初旬には学校全体で桜祭りが行われます。祥明大学は自然に囲まれており桜の時期には他校の学生や一般人の方も花見に訪れるほど、桜が有名だそうです。私も日文科の友人達と一緒に校内でお花見をしました。月末には中間テストが行われます。韓国は年に4回、テストがあるので日本の大学に比べると少し大変かもしれません。試験期間中は学校内の図書館が24時間開放されており、夜遅くまで学校に残って勉強する学生が多くいました。



文化祭

3日間にも渡る文化祭はその規模も日本の大学とは桁違いです。学科やサークルごとに数多くの出店が並び、そこではお酒の販売も行われます。そして学生によるダンスステージや毎年異なったアーティストの公演もあり、夜にかけて盛り上がりはヒートアップします。韓国では平日に文化祭を開催する大学が多く、祥明大学でも平日に行われました。文化祭があるとはいえ通常通り授業は行われるので、昼は講義を聞き、夜は文化祭を思いっきり楽しむ学生たちのけじめの良さに感心する瞬間でもありました。



日本語文学科セミナー

6月には日本語学科によるセミナーが行われます。各10人ほどのグループに分かれて日本に関するテーマについて発表します。私のグループは「日本の生産・技術職について」という難しいテーマでしたが、リーダーを中心として資料集めやパワーポイントの準備などを分担して行い、無事に発表を終えることができました。他のグループの発表も日本のゲーム産業や観光についてなど興味深い内容のものばかりで、私自身日本を改めて振り返るいい機会になったと思います。

夏休み

7月はソウルの新村にあるコシウォンを借り、1ヶ月間限定のソウル生活を楽しみました。前半は語学堂にも通い、タイや香港などから来た留学生と共に一日4時間ほど授業を受けました。3週間という短い期間でしたが、韓国語能力を伸ばすことができただけでなく、今まで関わることのなかった国の学生と知り合うことができたのはとても大きな収穫だったと思います。また、夏のソウルでは様々なイベントが催されました。右は新村に俳優のソン・ジュンギさんがゲストとしてやって来た『新村ビール祭り』での写真です。天安では芸能人を見る機会がなかったので、とても興奮しました。その他にも景福宮の夜間営業や有名なミュージカル『NANTA』、ロッテワールドでのナイトパーティなど、ソウルならではのイベントに参加することができました。このように後半は同じ留学生の内山さん、北岡さんと共に観光を楽しんだり、韓国人の友人に会ったりと、とても充実した夏休みを過ごすことができました。



旅行

韓国は日本に比べて交通費がとても安いので、ソウル以外にも様々な場所へ旅行に行くことができました。

全州 (チョンジュ)



▲韓服はレンタルすることができます



▲全州韓屋村(ハノッマウル)

坡州 (パジュ)



▲展望台から北朝鮮が見えます



▲鳥頭山統一展望台



済州島 (チェジュド)



▲ハンラボンジュース



▲牛島(ウド)でモーターバイクに乗りました



▲緑茶畑



▲海も透き通るほど綺麗です

釜山 (プサン)



▲海東龍宮寺



▲The bay 101



▲甘村文化村



▲シアホットク

様々な場所に旅行に行きましたが、夏休みに行った済州島旅行が一番心に残っています。化粧品ブランドの広告などによく使われる緑茶畑では、その一面に広がる緑に圧倒され、済州島本土から船で10分ほどの牛島（ウド）では、モーターバイクで海沿いを走り、特産物である黒豚を食べ、とても充実した旅行となりました。また宿泊したゲストハウスでのパー



ティに参加し、各地から来た韓国人の旅行者の方と交流する貴重な体験をすることができました。初対面の韓国人と会話するのに最初は緊張していましたが、私が外国人と分かると「日本のどこに住んでいるの?」「韓国料理で何が一番好き?」と皆さんとても優しく接してくださいました。そんな優しさに触れると同時に、自分の韓国語が韓国人に通じ、会話できていることに嬉しさを感じました。留学当時は話すことはもちろん、聞き取り

もままならなかったのに留学して半年経ち、自分でも分からないうちに韓国語を聞き取り、話せるようになりました。このように自分自身の成長を感じることもできた済州島旅行は一生忘れることのできない思い出となりました。

また韓国で一番北朝鮮と近い場所に位置する坡州（パジュ）では、統一展望台から北朝鮮の土地を見ることができました。私が行った日はあいにく天気が悪く、家や学校のような建物しか見えなかったのですが、晴れた日には人まで見えることもあるそうです。私は韓国人の友人と一緒に統一展望台に行き



ましたが、軍事境界線上にある板門店（パンムンジョム）は外国人でも個人での訪問はできず、韓国人は申請から許可までに数か月ほどかかることもあるそうです。船があれすぐに渡れそうな近さにあるのに、このように厳重な警備で南北が分けられている、あくまで『休戦中』であるということを痛感しました。普段の生活ではあまり触れることのなかった歴史問題について改めて考えさせられるきっかけとなり、留学中に坡州（パジュ）を訪れることができ本当に良かったと思います。

前期を終えて

あっという間に留学して半年が過ぎました。半年経った今、自分のしたい事を自由にできるのは今しかないんだ、という気持ちで毎日を大切に過ごせるようになり、日本にいる時よりも活発的な性格になったと実感しています。この気持ちを忘れずに残りの留學生活も悔いの残らないよう楽しみたいと思います。